第32回日本証券アナリスト大会

パネルディスカッション

グローバリズムの危機と企業・アナリストの対応

≪パネリスト（五十音順）≫

魚　谷　雅　彦
（株式会社資生堂
代表取締役執行役員社長 兼 CEO）

デービッド・アトキンソン
（株式会社小西美術工藝社
代表取締役社長）

國　分　文　也
（丸紅株式会社
代表取締役社長）

■司会者

秋　池　玲　子
（ボストン コンサルティング グループ
シニア・パートナー＆マネージング・ディレクター）

目　次

1．はじめに
2．欧米のグローバリゼーション動向
3．日本企業のグローバル戦略と生産性の問題
4．アナリストへのメッセージ

1．はじめに

秋池　本日のテーマには一つの答えがある訳ではないため、この議論において多様な意見があることを感じていただければと思っている。グローバリゼーションには、大航海時代のようなものもあれば、1980年代から近年までのようなフェーズもある。この数年間は保護主義が台頭してきており、今後、各国の政治的な動きを含めて一体どうなっていくのかが問われているように思う。本日の講演でも「グローバリゼーションは死なず」といったことが語られていた。グローバリゼーションがどのように変わっていくのかをこのパネルディスカッションのテーマとする。

この数年は自由貿易を促すルールよりは、規制するルールが多く作られているようだ。人件費が高騰する中で、製造業の生産拠点はどうあるべきかという問題もある。昨今では、グローバリゼーションが幾つかの種類に分かれてきているのが鮮明化してきたが故に、議論が難しくなっているという面もある。例えば、製造業の会社が、調達や生産の場をどこにして、どこを市場にするのかを